

農産物の残留農薬検査結果（令和5年10月）

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、令和5年10月に各区福祉保健センター及び医療局食品専門監視班が収去した市内産農産物及び冷凍食品の検査結果を報告します。

市内産農産物については、なす6検体、こまつな5検体、玄米4検体、さつまいも及びばれいしょ各3検体、とうがん及びピーマン各2検体、かぼちゃ、キャベツ、きゅうり、さといも及び水菜各1検体の計30検体、冷凍食品については、かぼちゃ2検体、さといも、ブロッコリー及びほうれんそう各1検体の計5検体、合計で35検体の検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。ピーマン2検体、かぼちゃ(冷凍)、キャベツ、こまつな、さといも、ばれいしょ及びほうれんそう各1検体から延べ13項目の農薬が検出されましたが、基準値を超えたものはありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 市内産農産物及び冷凍食品の残留農薬検査結果 （令和5年10月）

農産物	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
市内産農産物					
かぼちゃ	1	0			
キャベツ	1	1	クロルフェナピル	0.33	1
きゅうり	1	0			
玄米	4	0			
こまつな	5	1	ジノテフラン	0.05	10
さつまいも	3	0			
さといも	1	1	イミダクロプリド	0.03	0.4
とうがん	2	0			
なす	6	0			
ばれいしょ	3	1	{ クロチアニジン	0.04	0.3
			{ チアメトキサム	0.06	0.3
ピーマン	2	1	{ クロチアニジン	0.26	3
			{ クロルフェナピル	0.18	1
		1	ルフェヌロン	0.03	1
水菜	1	0			
冷凍食品					
かぼちゃ	2	1	{ アルドリン及びディルドリン	0.008	0.1
			{ エンドリン	0.01	0.05
さといも	1	0			
ブロッコリー	1	0			
ほうれんそう	1	1	{ アゾキシストロビン	0.08	30
			{ イミダクロプリド	0.12	15
			{ シペルメリン	0.27	5

注) 中括弧({})はそれぞれ同一検体から検出されたもの

表 2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物					農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物				
		A	B	C	D	E			A	B	C	D	E
BHC (α, β, γ 及び δ の和)	0.005	○	○	—	○	—	テブコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
DDT (DDE,DDD,DDTの和*)	0.005	○	○	○	○	○	テブフェノジド	0.01	○	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	○	テブフェンピラド	0.01	○	○	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	○	テフルトリン	0.01	○	○	○	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	○	○	トリアゾホス	0.01	○	○	○	○	○
アセフェート	0.01	○	○	○	○	○	トリチコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○	トリフルラリン	0.01	○	○	—	○	—
アラクロール	0.01	○	○	○	○	○	トリフロキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○
アルドリン及びディルドリン	0.005	—	○	—	○	○	トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○	○
イソキサチオン	0.01	—	—	○	○	○	トルフェンピラド	0.01	—	○	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	ノバルロン	0.01	○	○	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	○	パラチオン	0.01	○	○	○	○	○
エトキサゾール	0.01	○	○	○	○	○	パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○	○
エトフェンプロックス	0.01	○	○	○	○	○	ピフェントリン	0.01	○	○	○	○	○
エポキシコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	ピリダベン	0.01	—	○	○	○	○
エンドスルファン(α 及び β の和)	0.005	○	○	○	○	○	ピリプロキシフェン	0.01	○	○	○	○	○
エンドリン	0.005	○	○	—	—	—	ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○	○
オキサミル	0.01	○	○	○	○	○	ピリミノバックメチル	0.01	○	○	○	○	○
カルバリル	0.01	○	○	○	○	○	ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○	○
カルプロパミド	0.01	○	○	○	○	○	ファモキサドン	0.01	—	○	○	○	○
クミルロン	0.01	○	○	○	○	○	フィプロニル	0.002	—	○	○	○	○
クレソキシムメチル	0.01	○	○	○	○	○	フェナリモル	0.01	○	○	○	○	○
クロチアニジン	0.01	○	○	○	○	○	フェントロチオン	0.01	○	○	○	○	○
クロマフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○	○
クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	○	フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○	○
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	○	フェントエート	0.01	—	○	○	○	○
クロルプロファミ	0.01	○	○	○	○	○	フェンバレレート	0.01	○	○	○	○	○
クロロクロン	0.01	○	○	○	○	○	フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	○	○	フェンブコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○	○	フェンプロパトリン	0.01	○	○	○	○	○
シアノホス	0.01	○	○	○	○	○	フサライド	0.01	—	○	○	○	○
ジエトフェンカルブ	0.01	○	○	○	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○	○
ジコホール	0.01	○	○	○	○	○	ブプロフェジン	0.01	○	○	○	○	○
ジノテフラン	0.01	○	○	○	○	○	フルジオキサニル	0.01	○	○	○	○	○
シハロトリン	0.01	—	○	○	○	○	フルシトリネート	0.01	○	○	○	○	○
ジフェノコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	フルトラニル	0.01	○	○	○	○	○
シフルトリン	0.01	○	○	○	○	○	フルバリネート	0.01	○	○	○	○	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	○	○	○	フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	○	○
シプロコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	フルリドン	0.01	○	○	○	○	○
シペルメトリン	0.01	○	○	○	○	○	プロシミドン	0.01	○	○	○	○	○
ジメトエート	0.01	○	○	○	○	○	プロチオホス	0.01	○	○	○	○	○
ジメトモルフ	0.01	○	○	○	○	○	プロバホス	0.01	○	○	○	○	○
シラフルオフェン	0.01	○	○	○	○	○	プロピコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
ダイアジノン	0.01	○	○	○	○	○	プロピザミド	0.01	○	○	○	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	○	○	ブロモプロピレート	0.01	○	○	○	○	○
チアクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
チアメトキサム	0.01	○	○	○	○	○	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	—	○	—	○	—
テトラコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	ペルメトリン	0.01	—	○	○	○	○

表 2(続き) 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物					農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物				
		A	B	C	D	E			A	B	C	D	E
ペンコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	○	○	○	○	○
ペンシクロン	0.01	○	○	○	○	○	メチダチオン	0.01	○	○	○	○	○
ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○	○
ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	○	○	メトラクロール	0.01	○	○	○	○	○
ボスカリド	0.01	○	○	○	○	○	リニユロン	0.01	○	○	○	○	○
ホスチアゼート	0.01	○	○	○	○	○	リンデン(γ -BHC)	0.005	○	○	○	○	○
マラチオン	0.01	○	○	○	○	○	ルフェヌロン	0.01	○	○	○	○	○
ミクロブタニル	0.01	○	○	○	○	○	レナシル	0.01	○	○	○	○	○
メタミドホス	0.01	○	-	○	○	○							

農産物の種類 A:玄米 B:かぼちゃ、こまつな、ピーマン、ブロッコリー、ほうれんそう C:キャベツ、とうがん、なす、水菜 D:さつまいも、さといも、ばれいしょ E:きゅうり

○:実施、-:実施せず

*DDTは p,p' -DDE、 p,p' -DDD、 o,p' -DDT及び p,p' -DDTの和

【農薬解説】

今回は、複数の農産物から検出された農薬を紹介します。

イミダクロプリド

ネオニコチノイド系の殺虫剤で、高い殺虫活性、浸透移行性、残効性があります。カメムシ目、コウチュウ目、アザミウマ目に殺虫効力があり、有機リン系、カーバメイト系殺虫剤に抵抗性を示す害虫及びミナキイロアザミウマやタバコジラミのような難防除害虫にも効果があります。

クロチアニジン

ネオニコチノイド系の殺虫剤で、カメムシ目、チョウ目、ハエ目、アザミウマ目害虫等幅広い害虫に低薬量で効果を示します。特に吸汁性害虫に高い殺虫効力があり、既存の薬剤に抵抗性を示すアブラムシ等や難防除害虫のマメハモグリバエに対しても効果があります。また、散布、育苗箱処理、植穴処理、株元処理、種子処理等多様な処理方法が可能です。

クロルフェナピル

ピロール環を持つ殺虫・殺ダニ剤で、野菜・茶・果樹等のチョウ目、アザミウマ目、ダニ目害虫に対して殺虫効果があります。既存の殺虫剤との交差抵抗性がなく、難防除害虫にも優れた効果があります。

※参考文献

・社団法人日本植物防疫協会、農薬ハンドブック2021年版

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】